

学習指導案の形式（例） 高等学校理科

理科（科目名）学習指導案								
〇〇高等学校 〇〇科 年 組								
平成 年 月 日（ ） 第 校時 教室 指導者								
単元 （題材）	<p>まとまりをもった教育内容の単位の名称であるが、実現すべき教育的意図をも表すため、実現すべきねらいを考慮し、工夫する。</p> <p>※「単元」について、ひとつの完結性のあるまとまった学習経験を生徒に与える単位として、教科書の「章」や「節」を基準にする。</p>							
目 標	<p>学習指導要領に示された単元の目標及び内容を踏まえ、それらに照らし合わせた生徒の実態や教材の意味などを考慮しながら、全体を見通した目標を設定する。</p> <p>評価の四つの観点「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」について具体的な目標を設定する。生徒の発達段階を踏まえて、学習経験とつながりを持たせて記載する。目標は、実現状況を示す評価規準となるので、適切な評価ができるように、精選して簡潔に記載する。</p> <p>〔関心・意欲・態度〕 (～を意欲的に探究しようとする。)</p> <p> (～に関心をもっている。)</p> <p>〔思考・判断・表現〕 (～について予想や仮説を持ち、表現することができる。)</p> <p> (～して考察し、自分の考えを表現することができる。)</p> <p>〔観察・実験の技能〕 (～に関する実験の基本操作を身に付けている。)</p> <p> (～を調べ、得られた結果を的確に記録することができる。)</p> <p>〔知識・理解〕 (～について理解し、知識を身に付けている。)</p> <p style="text-align: right;">[生徒の立場で書く]</p>							
指導上 の立場	<p>◎単元観（教材観）</p> <p>取り上げる教材の内容、既習事項との関連、今後の展開等、その教材を取り上げる意義、生徒にとっての必要性・妥当性など</p> <p>◎生徒・学級の実態（学級観）</p> <p>既習事項の定着度、生徒の興味・関心・意欲、題材に関する知識・技能など</p> <p>◎指導・支援上の基本方針や留意点（指導観）</p> <p>指導・支援の力点、指導の形態、仮説、その他の配慮事項など、生徒のよさや可能性を生かすような工夫や手だて</p> <p>※生徒の発達、経験、意欲等の実態を踏まえるとともに、単元の系統性をおさえて具体的に書く。</p> <p style="text-align: right;">[指導者の立場で書く]</p>							
指導と 評価の 計 画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">主な学習活動</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">具体的な評価規準（◇）と評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> 第一次 ・・・○時間 ○生徒の活動を具体的に記す。 </td> <td rowspan="2" style="padding: 5px; vertical-align: top;"> ◇評価規準（観点）〈評価方法〉 ※目標に示している観点と整合性をもたせて、それぞれの学習のまとまりにおける中心的な評価場面について、おおむね満足できる状況（B）の具体的な姿を示す。 ※学習対象や学習活動に応じて、評価する場面を想定し、必要な評価機会に位置付ける。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> 第二次 ・・・○時間 ※本時が含まれている学習のまとまり（次）については、 第1時 ○○○○ 第2時 ○○○○・・・（本時） 時案を示して、単元全体における本時の位置付けを明確にするとよい。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> 第三次 ・・・○時間 ○※文末表現例「～について話し合う」など </td> <td style="padding: 5px;"> ◇ ※文末表現例「～している」など </td> </tr> </tbody> </table>	主な学習活動	具体的な評価規準（◇）と評価方法	第一次 ・・・○時間 ○生徒の活動を具体的に記す。	◇評価規準（観点）〈評価方法〉 ※目標に示している観点と整合性をもたせて、それぞれの学習のまとまりにおける中心的な評価場面について、おおむね満足できる状況（B）の具体的な姿を示す。 ※学習対象や学習活動に応じて、評価する場面を想定し、必要な評価機会に位置付ける。	第二次 ・・・○時間 ※本時が含まれている学習のまとまり（次）については、 第1時 ○○○○ 第2時 ○○○○・・・（本時） 時案を示して、単元全体における本時の位置付けを明確にするとよい。	第三次 ・・・○時間 ○※文末表現例「～について話し合う」など	◇ ※文末表現例「～している」など
主な学習活動	具体的な評価規準（◇）と評価方法							
第一次 ・・・○時間 ○生徒の活動を具体的に記す。	◇評価規準（観点）〈評価方法〉 ※目標に示している観点と整合性をもたせて、それぞれの学習のまとまりにおける中心的な評価場面について、おおむね満足できる状況（B）の具体的な姿を示す。 ※学習対象や学習活動に応じて、評価する場面を想定し、必要な評価機会に位置付ける。							
第二次 ・・・○時間 ※本時が含まれている学習のまとまり（次）については、 第1時 ○○○○ 第2時 ○○○○・・・（本時） 時案を示して、単元全体における本時の位置付けを明確にするとよい。								
第三次 ・・・○時間 ○※文末表現例「～について話し合う」など	◇ ※文末表現例「～している」など							
全○時間	[生徒の立場で書く]							

本 時 案 （第〇次の第〇時）		
目 標	<p>○</p> <p>・題材（単元）の目標の「関心・意欲・態度」,「思考・判断・表現」,「観察・実験の技能」,「知識・理解」のうち,本時の学習活動で目標としているものを具体的に書く。</p> <p>・ねらいを明確にした授業づくりのために一,二の目標に絞り込む。</p> <p>文末表現例「～しようとする」「～できる」など [生徒の立場で書く]</p>	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など
[生徒の立場で書く]	[指導者の立場で書く]	[生徒の立場で書く]
1	<p>学習活動のねらい（生徒に提示する本時の目標）を,実線で囲んで書く。</p>	
2	○	<p>観察・実験の場合 安全面への留意事項を書く。</p> <p>○ <観察></p> <p>・評価の観点,規準,方法などを具体的に書く。 ・本時の目標と対応させる。評価場面は1～2か所</p>
(1)	○	
(2)	○	<p>※評価方法例 ワークシート 作品提出 小テスト 相互評価表 など</p>
<p>学習過程に沿って,生徒の活動を具体的に書く。</p> <p>※文末表現例 ～を確かめる。 ～に気づく。 ～を知る。 ～を考える。 ～を発表する。 など</p>	<p>指導過程に沿って,教師の指導・支援上の配慮事項などを書く。</p> <p>・指導の意図,重点方法,工夫など ・指導と評価の一体化を図る手だて ・生徒一人一人の学習への手だて ・予想される生徒の反応 ・板書計画や準備物などは別に欄を設けることもある。</p>	
3	○	
	※「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への具体的な手だても記す。	
4	○	

※学習指導案作成上の留意事項

- 1 書式は固定的なものではない。生徒に提示する活動のねらいやそれを達成するための手だてを具体的に表現するのに適した書式を選択する。
- 2 どのような書式を選択しても,次の点は学習指導案から読み取れるようにする。
 - ・生徒がどのような目標をもって活動すればよいのか,また,生徒がその目標を達成できるように,指導者がどのような手だてを講じているか。
 - ・指導の中で評価がどのように位置付けられ,どのように活用されているか。
- 3 『評価規準の作成,評価方法の工夫改善のための参考資料—高等学校理科—』（平成24年7月国立教育政策研究所）を参考にして,生徒の発達の段階を踏まえ,単元の指導のねらいを明確にするとともに,評価規準を適切に設定することが望ましい。なお,「十分満足できる」状況（A）と判断する際のキーワードとその具体的な姿の例や,A B Cの評価の尺度を示すこともある。